

# 高校生と考える「北斗市のまちづくり」

「北斗市のまちづくり」に対して、高校生の素直な思いを紹介する連載企画です。市内の4つの高校の生徒の皆さんに自由にテーマを考えてもらい、自由な意見をとりまとめた構成での連載です。第3回は「函館水産高等学校」の生徒の皆さんです。

## 第3回 函館水産高等学校

函水の歴史は古く、その前身は明治12年開校の函館商船学校。大正13年に函館弥生町から七重浜に移転した商船学校の校舎等を引き継ぎ、昭和10年に北海道庁立函館水産学校が創立された。昭和25年、現在の北海道函館水産高等学校に改称。平成9年に漁業科、水産製造科、機関科を



土岐夏稀さん 吉田頼芽さん 諸澤龍生さん 中原寧々さん

それぞれ海洋技術科、水産食品科、機関工学科に学科転換。平成16年、水産食品科の1クラスを品質管理流通科に転換し、現在の4学科制となった。

函水の特徴は、充実した設備や恵まれたカリキュラムの中で、生徒は学習と同時に実務経験を積むことができること。即戦力として就職、専門知識を持つて進学と、卒業後の進路は幅広い。また機関工学科は併設する専攻科へ進学し、国家資格の海技士を目指すこともできる。現在、本科12クラス428名、専攻科2クラス14名が水産人として学んでいる。

考えたテーマは

### 地元の人へまちのPR

#### インタビュー

——北斗市の商業圏での学校生活は楽しいですか？

「学校は楽しいです。商業施設も近くにあって、みんなよく行きますが、公園や図書館などがないので遊びのバリエーションが少ない」

函館水産高校では、実習で製造した製品を生徒が販売まで行っています。茂辺地さけまつりなどで販売された「鮭トバチップス」は、さけまつり当日は販売開始を待つお客さんの長い列ができ、完売になるほどの人気でした。



りの臭みを消す研究をしている。水産クラブ研究発表大会で、その研究が受賞すればプリと北斗市のPRにもなるし、市民の人も注目してくれる」

「積極的に企業とコラボしていけば、北斗市の名産品になると思う。入手のしやすさ、栄養価の高さなど売り出し方は幅広い」

「プリを北斗市の名産として売り出すにはまだ歴史が浅い。イカや鮭のように地元の身近な食材にならないといけないから、七重浜から全国に広がってほしい」

「地元にある全国レベルのイカの加工技術があれば、もっとおいしい食べ物を見つけれられる食材だと思う」

——物や場所に限らず、今ある北斗市の魅力とは何でしょうか？

「新幹線の駅があるのは魅力。それを活かしていきたいのがもったいない」

「北斗市のチャレンジ講座がきっかけで、今も続けている習い事があるし、市は部活動の支援も良くしてくれました。医療費助成だけじゃなくて、子育てしやすい環境だと思う」

「トラピストに思い入れがあって、おみやげも良いけど歴史も含めて、みんなに知ってほしい」

「都会と比べてしまうと物足りないけど、必要最低限のものと自然がある。住みやすい環境だと思う」

「駅が近いので、生徒の3分の1くらいがいざ鉄を使っています。ただ無人駅で10月くらいから夜はとも寒いので、送り迎えが多くなる。料金が安くなって、本数が増えてくれれば、もっと利用しやすい」

——海浜清掃ボランティアや、実習などで地域イベントに参加する機会も多いと思います。活気のあるまちづくりが進められていると感じますか？

「活発的なイベントはあるけど、みんなに知られていない感じ」

「水産高校の活動も新聞などで取り上げてもらっていますが、近所の人あまり知られていない」

「今年度から缶詰販売は学校祭ではなく、七重浜れいんぼ祭りで行うことになりました。学校のSNSで発信していましたが、周知が足りず完売できなかったのが残念」

——地元を向ける市民を増やすためには、どんなことを行っていくと良いでしょうか？

「僕たちも学校の授業で考えるようになったので、地域の人にも考えるきっかけを作ってあげると良いと思う」



## 研究発表大会

### 優秀賞受賞！

水産食品科の生徒が取り組んだ「乳ホエーで魚臭さを少なくできるか」という課題研究が、11月に小樽市で開催された「全道水産クラブ研究発表大会」で優秀賞を受賞しました。

その後12月13日に山口県長門市で開かれた「全国水産・海洋高校生研究発表大会」では、水産食品科の3年生6名が北海道代表として出場し、奨励賞を受賞しました。



「僕は函館出身で、中学生の頃は北斗市と言えば七重浜までしか知らなかった。観光客だけにじゃなくて、道南全体にまちのPRを」

——学校では「はこだて・プリ消費拡大推進協議会」と協力し、漁獲量が増えているプリに関する授業も多いです。プリは皆さんにとって、どんな可能性を秘めた食材なんですか？

「水産食品科は乳ホエーを使ってプ

## インタビューあとがき

ハワイ沖の航海実習で漁獲したマグロを函館に水揚げしたのは、昨年初めてだったことに驚いた。これまでは静岡の清水港に水揚げされてきたが、地元を下ろすことで生徒はマーケティングを学べるようになったのだ。生徒が考案したキャッチコピーやステッカーデザインで商品化された「函水うまぐる」は、生徒が試食販売を行う地元スーパーで飛ぶように売れたようだ。

取材中、高校生と話をしている気がしなかったのは、函水生は「働きたい」まで学んでいるからではないだろうか。良い意味で高校生らしくなく、まちを支えている水産業への敬意、伝統ある学校への誇りも感じられた。まちづくりに「働きたい」を見出す函水生を待つても良いはずだ。(市民リポーター・田山隆太)

